



大雨で川のように！

県道鹿児島吉田線の 抜本的な側溝整備を!!

吉野
特集

9月6日から10月3日まで行われた平成28年第三回定例(9月議会)で、大園たつや市議は大雨のたびに川のようになり、通行が困難になっている県道鹿児島吉田線(雀ヶ宮交差点~滝之神浄水場間)の側溝の抜本的な整備を求めました。

●7月中の大雨時の現状を降水量とともに指摘!

質疑では、本年7月20日の現場写真(右)と7月中の降水量をもとに説明。7月の降水量の最高は8日の162.5mmでしたが、この日は23.5mmで6番目の降水量だったにもかかわらず、雀ヶ宮交差点の側溝から川のように排水が溢れています。

当局も「現状は認識している。」との答弁でした。



●県道鹿児島吉田線の側溝から 排水が溢れる大問題の原因を明らかに!!

一般的に長距離の下り坂になっている側溝は「上流側より下流側の断面を大きくすること、流速を低減させること、流れを阻害するような急激な形状の変化をさせないこと。」が求められると当局も答弁しました。

ところが問題の側溝は、雀ヶ宮交差点を中心に、上流側が幅50cm×深さ70cm、下流側が幅40cm×深さ50cmと、下流側の方が断面が小さくなっていることが、大園たつや市議の指摘によって明らかになりました。また、滝之神浄水場付近では大きくカーブになって流れを阻害しています。

●災害時の緊急輸送道路に指定されている 県道側溝の抜本的な整備をすべき!!

県道鹿児島吉田線の抜本的な側溝整備



大園 たつや 議員

県道鹿児島吉田線は市地域防災計画において、災害救助を実施するのに必要な要員および物資の輸送を迅速かつ的確に行うための緊急輸送道路に位置付けられています。また、市役所本庁が機能しなくなったとき、吉野支所が代替施設となっていることから、このような現状では、その役割を果たすことができません。

県当局への抜本的な整備の要請を求めたところ、市当局も「機能改善に向けて、県に要請したい。」と答弁しました。